

受験番号		名前
------	--	----

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「じゃあ、①考えてきます。あしたまでに。」

「たのむね」

おばさんと子馬に手をふると、春花は歩きだした。歩きなれた通学路だ。けれど、まるで知らない道を歩いているような気がしてくる。

名前をつけてと任されるなんて、初めてのことだ。これまでに自分で名前をつけたことがある生き物を思い出す。お祭りのときにすくった、おとなしい金魚。それだけだ。

どんな名前がいいかな。春花は、頭の中に子馬のまぶしい姿を思いえがきながら、帰り道を歩いた。

そのときだ。道の角から、ふらりと②勇太が現れた。弟の陸を連れている。

勇太は、ひと月前に、遠くの町から引っこしてきた。

「今度、同じ組になるの。仲よくしてやってね。」

春花の家へあいさつに来たとき、勇太のお母さんはそう言った。

春花は、はい、と答えたけれど、実際には、どうしたらいいか、分からなかった。話しかけても、勇太はあまりしゃべらない。でも、陸とは楽しそうに遊んでいる。親しくなるきっかけは、なかなかつかめなかった。

「牧場に子馬がいるんだけど、気がついた。」
春花はきいてみた。勇太は目を合わせない。ただ、足元を見ている。
「あそこの牧場で子馬が生まれたんだよ。あたし、子馬の名前を考えてって、牧場のおばさんから、たのまれちゃった。」
「わあ、すごいね。なんてつけるの。」
③目をかがやかせたのは、陸のほうだ。
勇太は顔を上げて、ちらっと春花の方を見た。でも、すぐに目をそらした。
「まだ言わないよ。明日の放課後、牧場のところに来て。そうしたら教えるから。」
「今、教えてよ。今、知りたい。」
陸が早口で言った。陸は、二年生だ。
「もう行こう。」
勇太はふいっと向きを変えて、歩きだした。陸は二、三度、春花の方をふり返りながら、勇太についていった。
「なによ、その態度。」と言いつつになつたけれど、春花は言葉をぐつと飲みこんだ。

〔蜂飼耳〕なまえつけてよ〕

問一 ①「考えてきます」とありますが、春花は何を考えてくると言っているのですか。

()

問二 ②「勇太」について

I 「勇太」はどんな少年ですか。次の文の()にあてはまる言葉を書きなさい。

ひと月前に、() から引っこできて、春花と() になった男の子。

II 春花は「勇太」についてどう感じていましたか。次の文の()にあてはまる言葉を書きなさい。

話しかけても() () ので、親しくなる() () がつかめず、仲よくするにはどう

うしたらいいか、分からずにいた。

問三 ③「目をかがやかせた」について

I 「目をかがやかせた」のは陸のどんな気持ちを表していますか。最も適切なものをア～エの中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア 春花とおしゃべりをして、もっと親しくなりたい。 イ 子馬の名前をつけることについてもっと知りたい。

ウ 子馬の様子について、もっとくわしく教えてほしい。 エ 春花に兄の様子をくわしく聞きたい。

II 陸と同じような勇太の気持ちは、どんな動作に表れていますか。文章から一文でぬき出しなさい。

()

問四 春花は、勇太たちにどんな約束をしましたか。

()

二次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(1)～(10)は段落番号を表す。

(1) 江戸時代の日本は、単純に農業国という言葉では説明できないほど、あらゆる面で植物と共存し、植物に依存し、しかも植物を利用してすべてを生み出したばかりか、見事にすべてを循環させる「(A)」だったのである。

(2) 地面に生えている植物が人類にとって有用な物質を作るためには、その時に天から降り注いでいる太陽エネルギー以外のエネルギーを必要としない。(B)、人間の作る不器用な機械に比べれば、自然の生み出した①精妙な生産装置でもある植物の生産力は信じられないほど大きいのだ。

(3) 植物は、水と二酸化炭素を主な原料とし、すぐに食べられる穀物や果物、野菜ばかりか、人間には合成できないようなさまざまな物質や、簡単な加工をするだけで家が建てられる材木などを合成しながら、大量の酸素を大気中に放出する。いわゆる炭酸同化作用だ。

(4) あらゆるものが植物でできている世界では、燃やせばもちろんのこと、食べても捨てても、いずれ微生物が分解して主として二酸化炭素(炭酸ガス)と水に戻る。二酸化炭素は、再び植物の原料になって、遠からず全部が元通りの植物体になるため、全体としては何も増えず何も減らない。しかも、日本の伝統的な方法によれば、せいぜい過去一年か二年間の太陽エネルギーによって育った植物で、ほとんど全部の②生活必需品ができた。

(5) ③その範囲で生活してさえすれば、すべてが土と大気と植物の間を絶えず循環している。循環させる原動力は太陽エネルギーだけだから、何も減らなければかりか、捨て場に困るほどの物ができてしまう心配もない。すべてのものが次々と形を変えながら(C)によって循環し、植物がまた植物に戻る自然の大きなリサイクルが生活の基本となっていた。

(6) 水車のように、目の前で廻る様子がはつきり見えるわけではないが、かつての日本ではすべてが本場に廻っていたのである。

(7) 人間のさまざまな営みは、その一部に便乗しているだけであって、大きなリサイクルをさまざまに必要とする要素はほとんどない。

(8) 先祖たちは自然の大きなリサイクルを利用してさまざまな品物を作ったが、それが役目を終えた後も、いちいちいねいに回収して再生したり、時には新しい製品の材料として徹底的に使い抜いた。

(9) 今の私たちは、④この部分だけを取り上げてリサイクルと呼んでいるが実をいえば、人間によるリサイクルは自然の「大きなリサイクル」のほんの一部であって、「小さなリサイクル」とでも呼んだ方がふさわしいだろう。

(10) 大きなリサイクルと小さなリサイクルがうまく噛み合って廻っていれば、何も増えず減らず、産業廃棄物はもちろん、大気や水の汚染もほとんど発生しない。江戸時代は、この噛み合わせが芸術的といえるほどうまくいっていたので、全体としての環境は非常に安定していた。(石川英輔『大江戸リサイクル事情』)

*炭酸同化作用：生物が炭酸(二酸化炭素)を体に取り入れ、生物自身の体に合成する作用。

問一 (A)に入る最も適切な言葉をア～エの中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア 自然国家 イ 植物国家 ウ 太陽国家 エ 農業国家

問二 (B)に入る最も適切な言葉をア～エの中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア または イ しかし ウ それで エ しかも

問三 ①「精妙な生産装置」とあるが、植物が生産するものについてくわしく説明しているのはどの段落か。段落番号で答えなさい。

() 段落

問四 ②「生活必需品」とあるがこれを次のように言い換えたとき()に入る言葉を漢字三字で書きなさい。

生活するうえで必要()な品物。

※問題はその三に続きます。

受験番号		名前
------	--	----

問五 ③「その範囲」^{はんい}について説明したつぎの文中の（ ）に入る言葉を、文章中から二十九字でさがし、初めと終わりの三字を書きなさい。

)

() だけを利用する範囲。

問六 (C) に入る適切な言葉を、文章中から七字でぬきだしなさい。

()

問七 ④「この部分」が指す内容を説明した次の文中の（ ）に入る言葉を文章中から六字でぬき出しなさい。

・役目を終えた品物を（ ）
 () したり、新しい製品の材料として

問八 筆者は、便利な現代文明社会に生きる私たちに、どのようなことを望んでいると考えられるか。「大きなリサイクル」「小さなリサイクル」という言葉を使って答えなさい。

[]

三 次の会話文で、慣用句を間違っって使っている部分があります。間違いの字を漢字一字でぬき出して、正しい字に直しなさい。

- | | | | | | |
|---------------------------|-----|---|---|---|---|
| ① Aさん 「君と福井さんはいつも一緒にいるね。」 | ① 誤 | □ | ↓ | 正 | □ |
| Bさん 「福井さんとは牛が合うからね。」 | | | | | |
| ② Aさん 「お使いからまだ帰ってこないの？」 | ② 誤 | □ | ↓ | 正 | □ |
| Bさん 「どこで水を買ってるんだろうね。」 | | | | | |
| ③ Aさん 「きびしいコーチ、今日はいないね。」 | ③ 誤 | □ | ↓ | 正 | □ |
| Bさん 「ゆっくり角をのばせそうだね。」 | | | | | |
| ④ Aさん 「昨日はどこでだれと何をしてたの？」 | ④ 誤 | □ | ↓ | 正 | □ |
| Bさん 「そんな根掘り芋掘り聞かないでよ！」 | | | | | |

四 次の二字熟語の読みがなを（ ）に書きなさい。また、その読み方の説明を後から選び、□に記号を書きなさい。

- | | | | | | |
|------|-----|---|------|-----|---|
| ① 朝日 | () | □ | ② 着陸 | () | □ |
| ③ 手本 | () | □ | ④ 仕事 | () | □ |

ア 音読み＋音読み	イ 訓読み＋訓読み	ウ 音読み＋訓読み	エ 訓読み＋音読み
-----------	-----------	-----------	-----------

